

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	有限会社 福寿 グループホーム 福寿草
（ユニット名）	ことぶき館・しあわせ館
所在地 （県・市町村名）	秋田県大仙市
記入者名 （管理者）	工藤 智美
記入日	平成21年 6月24日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>家庭的な環境の中で、認知症の進行を防止、抑制し、入居者様が安心して過ごせるよう、自立支援を目指しています。又、個々にあったサービスを提供できるようにしています。</p>	<p>今後も自立支援を目指し、個々にあったサービスを提供していきけるよう力を入れていきたいと思ひます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の申し送りの時や毎月のサービス担当者会議、日常のケアを行っている時に、運営理念に沿ってケアできているかを職員全員で確認しながら、統一し取り組んでいます。</p>	<p>今年度、職員から独自のテーマ・標語を提出してもらいました。新しいテーマをホールの見やすい位置に掲示し、常に心掛けながら、入居者様やご家族へ生活のお手伝いをしていきたいと思ひます。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りを地域の方々に配布し、読んで理解して頂けるようにしています。民生委員の方に、運営推進会議の委員として出席していただいております、民生委員の方々のホームへの訪問があり、理解していただいております。</p>	<p>ホーム便りに今年度のテーマを載せ、伝えていきたいと思ひます。又、取り組むでの評価をしていただけたらとも考えています。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム周りの散歩に出かけた時や、近所のスーパーに出かけた時は、近所の方や店員さんから声を掛けられることもあり、こちらからも積極的に挨拶をして声を掛けている。ホームに立ち寄りやすいように、日頃から遊びに来てもらえるよう話し掛け、行事(納涼祭など)で近所の方が参加されている。</p>	<p>これからも地域に出かける機会を持ち、お互い声を掛け合える関係作りを保っていきけるよう努めていきたいと思ひます。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の親子会や青年部の方々と一緒に、毎年納涼祭を協力して行っています。他に地域の文化祭にも作品を毎年出展し、主催者からお礼の図書カードを頂きました。</p>	<p>これまでの納涼祭や地域の文化祭への参加を、これからも続けて地域との交流を深めていきたいと思ひます。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	運営推進会議や行事(納涼祭など)の他、地域に認 知症やホームへの理解を得れるよう、学生や一般の 方のボランティア、アルバイト-実習生の研修を受け入れてい ます。		学生や一般の方のボランティア、アルバイト-実習の研修受け 入れの他に、地域の方々を対象とした、認知症につ いて出前講座を行えたらと考えています。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価をすることの意義を職員が周 知し、自分たちのケアの見直しや確認となり、改 善に活かしています。		外部評価結果後に、職員と勉強会を開き、改善・ 再認識をしていきたいと思ひます。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動状況を紹介し、出 席されている委員の方々とは意見交換を行い、より よい運営やサービスにつなげていけるように努めて います。		実際の入居者様のその時の動きや、写真やビデオ も見ていただきながら、ホームの活動状況をより分 かりやすくご理解していただけるようにしてい きたいと思ひます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	運営推進会議の委員として、介護保険事務所の方 が参加されているので会議の時以外でも、介護保 険事務所や、大仙市仙北総合支所の担当課とは連 絡を取り合い、定期的に赴いてもいます。		これからも定期的に足を運び、サービスの向上に努 めていきたいと考えています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	入居者様の中で地域権利擁護事業や成年後見制度 を利用されている方がいるため、毎月来られる担 当支援員の方や専門員の方と連絡をとり支援して いる他に、制度について職員と会議の中で話し合 いを持つことができます。		職員が権利擁護に関する研修に参加できる機会を 作り、全員で学んでいきたいと考えています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	入居者様の自宅や事業所内で虐待がないか、入居 前の事前調査時や入浴・トイレの時など、会話の中 でも状態を観察して随時報告するようにしてい ます。		外部の高齢者虐待防止研修の参加後、内部でも研 修を行うことを続けていきたいと思ひています。 日常での入浴や着替えの時は、体に変化がないか をこれからも注意していきたいと思ひています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>契約前の説明の他に、介護報酬改定の都度、十分に説明を行って同意を得ていきたいと思ひます。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>今後も自由にいつでも苦情や意見、不満を申し出てもらえるような関係作りをしていきたいと思ひます。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>毎月の交換ノートをこれからも、写真やホーム便りと一緒に同封し、遠方のご家族でも日々の入居者様の様子が分かりやすいように記入し、ご家族とより良い関係を作って、々に活かしていきたいと思ひます。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>苦情があった場合は、意見と受け止め、回答し、ホームの質の向上に努めていきたいと思ひます。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>これからも意見を話しやすい関係や環境づくりをし、話を聞く機会を作りたいと思ひます。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>入居者様の状況に合わせた職員体制を整え、職員にも々にしやすい体制をも考えながら、日常的に双方見て改善してより良いケアができるようにしていきたいと思ひています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が成長し明るく働けるよう、日常から短時間ではありますが、職員から話を聞く機会を持っています。離職や異動の場合、入居者様やご家族へ説明し、不安にさせないように配慮しています。</p>		<p>結婚・出産による離職がありましたが、お腹を心配してくださり、自然な形で送ることができました。今後も入居者様やご家族が、異動等による不安やダメージを回避できるよう、努力していきたいと思います。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員それぞれの段階に応じた研修を計画しており、研修に参加できている。研修後は職員それぞれ報告書にまとめ、職員会議にて発表をしています。日々の生活の中で、管理者からケアへの助言や指導があり、運営者からはその他に資料や指導を通して研鑽の意義を伝えていきます。</p>		<p>今後も職員それぞれの段階に応じた研修を計画して、内部研修にも活かしてレベルアップしていけるようにしていきたいと思っています。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム連絡会の他、全国・県のグループホーム協議会に入会しており、研修には職員の参加を奨励しています。事業所間での相互訪問によるお互いの良いところ、真似をしたいところなどの気付きを得る勉強会も行っています。</p>		<p>地区のグループホーム連絡会での研修参加を、今後積極的に行っていき、今年度も事業者間での相互勉強会を計画していきたいと思っています。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員に、業務上の悩みやストレスを聞いたり、外部研修への参加を呼びかけたり、職員の親睦会(職員旅行や忘年会など)を開き、交流に努めています。</p>		<p>運営者は職員個々と面談し、悩み等を聞く機会を設けています。親睦会は職員の楽しみとなっているようなので、今年も予定しています。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員から要望を取り勤務表を作成し、時間も無理のない利用者に合わせた勤務体制になっています。運営者は研修を通してスキルアップに努め、個人の知識・技術の習得にバックアップしています。</p>		<p>職員の要望を勤務表に取り込み、月1回は連休を作り休めるように今後も検討していきたいと思っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者がホームに安心して入居することができるよう、利用者様やご家族と電話等で連絡をしながら、心配事や不安なことが解消されるように相談の機会を持っています。</p>	<p>より一層会話を大切にし、利用者様が感じていることや求めていることなどを受け止められるようにしていきたいと思います。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>自宅に訪問した際に、利用者様やご家族から困っていることや悩んでいることはないかなど相談を聞く機会を設けています。</p>	<p>利用者様と同様に、ご家族からも感じていることや求めていることなどを受け止められるように、会話を大切にしていきたいと思います。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者様やご家族が必要なサービスを利用できるように、他のサービスの利用を含めて検討し、支援させていただいています。</p>	<p>これからも入居者様やご家族の要望に応えられるよう、十分に検討し、質の向上を目指していきたいと思います。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者が無理のなく生活できるようなサービス計画書を、入居者様やご家族と相談しながら計画を立て、状況に応じて計画を変えていけるように配慮しています。</p>	<p>これからも入居者様やご家族と相談しながら、入居者様がより良くホームでの生活を送れるように、計画を立てていきたいと思っています。</p>
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>山菜を使った料理や、昔からの風習などを日常の会話の中から聞いたり、一緒に料理を教わりながら作る機会を持っています。畑や花の作業でも、植える時期やむね作り、肥料の量、植え方などを教わりながら一緒に汗をかきながら作業をしています。</p>	<p>これからも日常的に、入居者様から教えていただく機会を設け、入居者様のペースに寄り添って支え、笑いのあるホームにしていきたいと思っています。</p>

グループホーム 福寿草

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事(観桜会、納涼祭、敬老会等)に参加された時、一緒に同じ時間を過ごし、ご家族から帰り際に「楽しかったです」「またの機会の時も参加したいです」と言葉を頂くことがあります。		これからも家庭的な雰囲気、支えあえたらと思います。又、ご家族も一緒に参加していただけるような行事を計画し、参加を呼びかけていきたいと思っています。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	始めは短時間の面会で帰られることがありましたが、回を重ねるごとに面会する時間が長くなりました。毎月の交換ノートの中で、お互い気軽に最近のことや世間話などをお話することができています。外出や外泊があった時は、その時の入居者様の様子を聞き、ケアに生かしていくようにしています。		ご家族とこれまでの入居者様の生活歴等を聞きながら、より一層ご家族の話に耳を傾け、できるかぎりお手伝いをしていきたいと思っています。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の他に、ご家族の協力を得て自宅や親戚、友人の方と一緒に外泊や食事、結婚式、孫の運動会、墓参り、法事などに出掛けられています。		これからもご家族や入居者様の友人の力をお借りして、外出や外泊などのホームから出入りすることができるようしていきたいと思っています。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士が良い関係を作り保てるように見守りをして、必要に応じては声掛けをしています。世話好きの入居者様には、その力を発揮していただけるようにしています。入居者様によっては、食事やおやつ以外は自室に戻ってゆっくりされている方もいます。		これからも入居者様一人ひとりが良い関係を保てるよう、生活しやすい場を心掛けていきたいと思っています。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もご家族と電話や手紙を送ることで連絡をとり、最近の状況を聞きながら話を聞いたり、相談にのったりとしています。		電話や手紙の他に、暑中見舞いや年賀状を出し、今後もお付き合いしていければと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中から、入居者様やご家族から意向や望むこと、したいことなどを聞き出し、相談しながらできる限り意向に沿うことができるように努めています。意思伝達が困難な場合は、「もしこの方ならどう思うのだろうか」と考えながらケアするようにしています。</p>	<p>ご本人のしたいことを「したいこと行動隊」という用紙に計画を立て、入居者様と一緒に温泉や食事、買物に行くことを今年も計画しています。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前や入居後に、入居者様やご家族、面会に来られた方から、これまでの生活や習慣だったことを聞き、申し送りや会議の時にし、職員間で共有し、ケアにして活かしています。</p>	<p>入居者様一人ひとりの生活歴を、入居者様やご家族から協力を得ながら把握するようにして、職員間で共有してケアに活かしていけるように努めたいと思います。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の個人のケース記録や業務日誌、ケアチェック表に、その日の様子や出来事を詳しく記入し、情報を申し送りやサービス担当者会議(月1回・職員全員参加)を通して共有し、把握するようにしています。業務日誌に職員が確認のサインや日付を記入する欄を設けています。</p>	<p>これからも入居者様一人ひとりの1日の様子を記録に詳しく記入し、職員間で情報を密にし、共有して把握するようにしていきたいと思います。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントをして、入居者様の希望や思い、ご家族のケアに対する意向を取り入れ、入居者様の望んだ生活が実現できるよう、職員の意見を聞きサービス担当者会議を開き話し合い、計画を作るようにしています。</p>	<p>入居者様の望んだ生活ができるように、計画を作り、より良いサービスができるようにしていきたいと思います。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、ご家族やサービス担当者会議の関係者と十分に話し合い、検討をした上で計画を立て直しています。毎日の申し送りの時にも、入居者様の状態の変化で課題が発生した場合は、その都度計画の見直しをしてご家族と連絡を取り合っています。</p>	<p>ご家族と話し合う機会を多く持ち、ホームの立場でなく、入居者様に合わせた計画を作成していきたいと思います。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や行動障害は介護計画に沿った記録を心がけています。排泄回数、水分量、食事摂取量、バイタルの記録を個別に記入し、管理者からは赤ペンでケアに対する指示が記入しており、日勤者と夜勤者で必要事項の申し送りし、業務日誌で確認をしています。休み明けの職員は、出勤時日誌を必ず確認し、確認のサインと日付を記入しています。		職員一人ひとりが気付きを持って、記録にスムーズに記入できるよう、記録用紙の工夫をしていきたいと思っています。
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでの共同生活に合わなくなった場合や、ご家族の介護力による自宅での生活が可能になった場合など、入居前からの居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャーさんと経過の連絡をしており、情報を密にしています。		今後も入居前からの居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャーさんと連絡を密にしていきたいと思っています。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	主治医への受診や往診時は、家族の代わりに職員や看護職員(看護師兼保健師)が立会い、主治医の先生と連携をとっています。又、民生委員の方々によるホームへの訪問が予定されています。入居者様手作りの作品を公民館祭りに出展し、地域の方に見ていただいています。		これからも地域との関わりを持ち続け、幼稚園や小学校、中学校との関わりをもっていきたいと考えています。地域の消防団の方々も協力的で、納涼祭などにも来ていただいています。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所には、入居前からの担当者との連絡やホームでの生活の経過を密にしています。		これからも入居前からの居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャーとは、連絡を密にして情報を共有していきたいと思っています。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域権利擁護事業を利用されている入居者様がいらっしゃるの、地域包括支援センターと市社会福祉協議会等と連絡を取り、連携をとるようにしています。		ホームから地域包括支援センター等へ赴く機会を増やして、介護予防をはじめ、協働して入居者様を支えていけるように努めたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に、入居者様やご家族と入居後のかかりつけ医について相談し、納得の得られた希望の主治医を大切にしています。歯科医が特に決まっていな場合は、協力医をお願いしています。協力医療機関及び、歯科医療機関からは連携に関する同意を得ており、連携体制は整っています。看護職員(保健師兼看護師)は、医療機関との連携には素早く対応することができています。		入居者様やご家族が納得され信頼できるかかりつけ医を、ホームでも利用することができ、又これからも医療機関との連携も対応して、入居者様が適切な医療を受けられるようにしていきたいと思っています。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院があり、主治医に指示や助言を頂き、治療を受け、必要時は専門医を紹介していただいています。他に入居者様に専門医の受診の履歴があれば、相談して指示や助言をいただき、治療を受けられるようにしています。		入居者様が適切な診断を受け治療することができるよう、主治医や専門医と協力しながら関係作りをしていきたいと思ひます。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護職員(保健師兼看護師)と相談しながら、毎日の体調管理を行っています。必要に応じて、かかりつけ医院の看護師からもアドバイスを頂いています。		ホームの看護職員とかかりつけ医の看護師から、これからも受診時や電話相談などで、アドバイスを頂きながら入居者様の健康管理を支援していきたいと思ひます。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	以前入居者様が入院されていた時、早期に退院できるように家族との話し合いを持ち、病院の関係者からは情報を得るようにして、認知症に関して理解を頂いていました。その時は毎日病院に行き、様子を見ながら口腔ケアや爪切りなどのケアを行っていました。		今後も入居者様が入院された場合でも、病院に足を運び、様子を見て、ご家族や病院関係者と情報を共有しながら、早期退院に向けてお手伝いしていきたいと思っています。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の会話の中で、ご本人から重度化した場合や終末期に関する話題があった時は、ご本人の意向を踏まえ、ご家族に連絡して話し合うようにしています。又主治医にも連絡し、協力を得るようにして、連携をとり方針を共有できるようにしています。		これからもご本人の意向を踏まえて、日々の生活の様子や体調の変化を見ながら、ご家族と主治医とも話し合っていくようにしたいと思ひます。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者様がその人らしく過ごせるように、ご本人やご家族と話し合い、ホームでできることやできないことを見極め、主治医の先生やご家族とともに話し合い、相談して協力を得ながら支援しています。		現在入居者様で終末期を迎えられている方がいらっしゃいます。入居者様やご家族の意向を確認しながら、主治医と連携をとり協力しながら、ホームでの生活を送れるように支援しているところです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居時には、退居先への申し送りや介護・看護ワリを活用して話し合い、情報交換をしています。</p>		<p>これからも退居時には、介護・看護ワリを活用しながら、退居先への情報交換を密にし、入居者様が退居先でも不安なくケアを受けられるようにしていきたいと思っています。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は常に、入居者様が何を思っているのかを考えて、その人らしさを尊重しながら、さりげないケアをしています。トイレ介助やお風呂介助の時も、声掛けをして了解を得てから中に入り、お手伝いをさせてもらっています。個人のケース記録等への記入は、入居者様個人のケースファイルは個人情報に詰まった大切なもの、という意識を職員全員が持っており、鍵の掛かる所に保管しています。</p>		<p>プライバシーや個人情報の保護という当たり前のことを当たり前に扱い、入居者様への声掛けや対応も人生の大先輩であり、お手伝いさせてもらっているということを常に頭に入れ、心掛けてケアをしていきたいと思っています。</p>
<p>51</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>作業やレクリエーション、入浴の時間、散歩やドライブなど、毎日の生活の様々な場面で選択できる場面作りをし、入居者様一人ひとり異なるのは当然なので、個人個人の思いや希望に沿った生活を送れるように支援しています。何気ない会話の中から要望を聞き出し支援できるよう心掛けています。</p>		<p>これからも日常的に、入居者様が様々な選択できる場面作りをできるように努め、入居者様をよく知り、普段表に出にくい要望を引き出せるようにしていきたいと思っています。</p>
<p>52</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様の生活のリズムを考えながら、起床から食事、排泄、入浴など、個々のペースで過ごせるように対応しています。自室でゆっくり食事を摂られる方もいらっしゃいます。入居者様のしたいことを聞きながら、その日の過ごし方を決めて支援しています。</p>		<p>その日の入居者様との会話や様子の中で、入居者様のしたいことや思っていることに耳を傾け、入居者様が自由に生活していけるように支援していきたいと思っています。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>洋服は入居者様に聞きながら、好むものを選んでもらい準備をしたり介助をしています。整髪剤の介助する時は、手鏡を入居者様に持って見てもらいながら、好む髪型に仕上げるようにしています。定期的に近所の床屋さんの訪問がありますが、直接床屋や美容院を希望される方は外出支援をしています。職員に美容師が居るので、希望があれば白髪染めをしています。</p>		<p>入居者様一人ひとりの好みのものを把握し、おしゃれをした後の満面の笑顔をこれからも引き出せるよう、おしゃれのお手伝いをしていきたいと思っています。</p>

グループホーム 福寿草

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状況により、その日の献立を決めることができない時もありますが、日常の会話の中から食べたいものを聞き、職員と一緒に分担して調理をしています。職員と一緒に、ゆっくりと会話をしながら食事を食べることで笑顔が見られています。片付けも一緒に協力しながら行っています。		「ご飯美味しくていいな」と食事中おっしゃって下さる入居者様がいらっしゃいます。入居者様と一緒に食べたいものを、季節の食材を使いながら下ごしらえをしたり、味付けをしたりと、これからも続けていきたいと思っています。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙やお酒を嗜む入居者様が入居されていた時は、希望される時に喫煙やお酒を飲めるよう、見守りや声掛けをしていました。飲み物やおやつでも、ご本人が飲みたいもの、食べたいものを聞きながら、選択して飲食できるようにしたり、一緒に買い物に行き購入しています。		生活の中で楽しみとなるものやことを続けていくことができるよう、入居者様一人ひとりに合わせて柔軟に対応していくように努めていきたいと思っています。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	入居者様一人ひとりの排泄パターンやトイレ前の仕草を把握して、時間を見ながらさりげなく声掛けをし、誘導が必要な時は促しをし、失禁防止に努め、失禁があった場合には個別のケース記録にその時の状況を記録してケアに生かしています。以前おむつを使用されていた方が、排泄時の見直しにより、布パツのみで済むようになりました。		気持ちよく快適に排泄できるように、おむつを使用されている方の使用状況の見直しをし、その方にあったおむつを使用できるように、又はおむつから布パツへと移行できるようにこれからも支援してきたいと思っています。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様一人ひとりの希望に沿った入浴ができるように、健康状態に合わせて、主治医にいつでも相談できる体制になっています。一人ずつの入浴が大半ですが、時々仲の良い入居者様同士では一緒に入ることもあります。		現在夜間の入浴はありませんが、希望があれば支援してきたいと思っています。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜になかなか寝付けられない、落ち着けない入居者様へは、何か原因となっているものを探し、環境を整え、日中の活動を見直し、安心できる場所作りをして、入居者様に合わせた生活習慣やリズムを作るように工夫しています。薬剤を使用する場合は、主治医と連絡を密にし、相談しながら対応しています。		入居者様が気持ちよく朝に起きて、夜はぐっすり眠ることができるように、入居者様と関わりながら生活を支援してきたいと思っています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居される前からの日課を継続して行えるよう、必要なものはご家族の協力を得ながら揃えてホームでも楽しめるようにしています。起床してからの玄関掃除に始まり、家事の一連の作業、園芸など、入居者様一人ひとり得意なことを見つけ出し、役割や出番を作る取り組みを支援しています。		ホームで楽しみごとを見付けている入居者様もいらっしゃいますが、その他にも興味のあることはどんどん試して行き、外出も含め、更なる楽しみを見付けていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の買い物では、入居者様ご自身の財布から支払いを済ませています。職員は財布に入っている金額がいくらか把握しておくため、定期的にご本人と一緒に残金を確認し記録しています。自分のお金で支払いができない入居者様へは、さりげない声掛けをしながら支払いができるよう支援しています。		お金を使って嗜好品や日用品を買うことへは、ご家族の理解があり、ホームと相談しながら定期的にお小遣いを入居者様に渡されています。お金の管理の難しい入居者様でも、嗜好品を購入することができるよう支援していききたいと思います。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外に出るようにしています。洗濯物干しや散歩、花の水やり、草取り、買い物やドライブをしたりと、外での楽しみを感じれるように支援しています。		これからも入居者様一人ひとりのしたいことに合わせて、柔軟な対応をしていききたいと思います。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	なるべく可能な限り、入居者様が望む場所に出掛けることができるよう、ご家族に協力を得ながら行っています。孫の運動会への参加やお祭りでの自宅外泊、レストランでの食事、法事など機会を作り支援しています。		これからも体が不自由な入居者様でも、十分に計画を立てたいことや希望が叶えられるように、ご家族とも協力を得ながら支援をしていききたいと思います。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年希望される入居者様は、年賀状を綴って出しています。家族や友人との手紙のやり取りや電話は自由なので、子機を使用して自室で気兼ねなくお話しをすることができるように支援しています。		耳が不自由な入居者様もいらっしゃいますので、電話を取り次いだ後、必要な時は了解のもと職員も同席し、伝言などの支援をこれからも行っていききたいと思います。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会にきていただいた方には、入居者様の自室の他、ホールや居間を自由に使って、入居者様と一緒に時間を快適に過ごせるようにしています。お茶は自由に飲んでいただけるようになっていますし、居室への宿泊は、希望があれば宿泊できるようにベッドや寝具の準備をしています。		いつでもホームに来ていただけるよう、ホームの環境作りはもちろん、職員のマナー向上に努めていききたいと思います。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束が何かを把握し、身体拘束をしないケアをしています。薬剤拘束に関しても、常に医師や薬剤師に相談できる体制を整えています。		これからも身体拘束について、外部研修や内部研修に参加し、職員全員で学んでいけるように勉強会を開いていききたいと思います。

グループホーム 福寿草

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室や玄関に鍵をかけていません。常に職員が入居者様の動きや居場所を把握しているため、鍵をかけなくても外に出たい時は一緒に出入りし対応しています。		入居者様一人ひとりのプライバシーを配慮しながら、鍵をかけないケアをこれからも行っていきたいと思ひます。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常に入居者様の居場所が分かるような申し送りや立ち位置の工夫をして、状態を把握できるようにしています。		これからも入居者様のプライバシーを守りながら周囲の状況に気を配り、夜間も睡眠の妨げになつたり、不穩にさせないよう、様子を把握し配慮していきたく思ひます。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や消毒液、洗剤などは、鍵付きの保管場所が決まっています。包丁などの刃物も、鍵のついた場所に保管をしています。		これからも安全の為のリスクを考えながら、整理整頓を職員全員で心掛けて行っていきたく思ひます。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ベッドやケブラに、入居者様の健康状態を組み込んで転倒防止に組み込んでいます。誤薬防止のため、服薬準備をする際は、職員2名でお互い確認しながら準備をしています。行方不明防止では、個別のケースファイルに入居者様の写真と特徴を記入して活用できるようにしています。又1年に2回は、避難訓練を実施し、入居者様の状態に合わせた避難誘導の仕方を職員全員で学び取り組んでいます。		これからも日常的に、起こり得る可能性の高いものと意識しながら、ケアの中で習慣づけて行っていけるようにしていきたく思ひます。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、職員の目のつくところに掲示しています。体調の思わしくない入居者様には、日頃から看護職員(看護師兼保健師)から職員に対し、予測される急変への対応の指示があります。救急救命講習を、年1回は全職員が受講し訓練をすることで、急変時の対応ができるように行っています。		緊急時に限らず、職員全員が実践的に初期対応や応急手当ができるよう、実践訓練を内部研修で取り入れていきたく思ひます。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上は、昼夜の火災や地震などを想定した、通報、避難、初期消火訓練を消防署と自衛消防隊で訓練をしています。		地域の方と地域の消防団は協力的ですし、協力を得ながら、万が一の災害発生時に対応していけるよう訓練を通して備えていきたく思ひます。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	毎月の交換ノートは、入居者様の日々の生活の様子 を詳しく記入し、ご家族と情報を共有できるよ うにしています。ホームからでもご家族からでも何か 気になることがあれば、お互いに入居者様が安心 して安全に生活を送れるよう、相談をして解決し ていけるようにしています。		日々入居者様の心身の変化を見逃さないように し、十分にケアを行った上で、今後起こり得る リスクをこれからもご家族と相談していきたく 思います。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	入居者様一人ひとりの体調の変化や異変のサインを 見逃さないように、バイタルチェックを行い、ケース記録や 業務日誌に記入しています。体調に変化があった 時は、看護職員(保健師兼看護師)や管理者に報告 し、主治医に連絡し、受診や往診など対応をして います。		これからも入居者様の体調や異変を早期に発見で きるよう、知識や技術、職員やご家族との連携や 情報共有を持って対応していきたくと思いま す。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解に 努めており、医療関係者の活用や服薬の支 援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者様一人ひとりの病名に対する薬の 効能、飲み方、用量、副作用を把握しています。 薬は個々が必ず服用できるように、1回ごとにタ ブレットに入れ、名前と薬の中身を確認してから服薬 介助をしています。副作用等の効果が見られた場 合は、主治医に連絡し、指示を仰いでいます。		薬は、入居者様のその時々々の体調によって変更に なることもあるので、服薬時は注意深く確認を し、職員全員で申し送り、薬への知識や取り扱い をこれからも高めていきたくと思えます。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、起床時の冷水の飲用を声掛けを しています。又、和菓子糖の使用、ヨーグルトや寒天、 根菜や海藻、きのこなどを食事に多く使用するよ うに心掛けています。日中は、散歩やホールを歩く ことで体を動かすことを声掛け、促しをしていま す。		入居者様によっては、食事や飲み物、体を動かす ことで排便調節がなされていらっしゃるの で、これからも継続して便秘への取り組みをしてい きたいと思えます。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている	毎食後のほかに、起床時や就寝前などに歯磨きや うがいをすることで清潔を保てるように声掛けや 促しをし、必要時はブラッシング介助を行ってい ます。入れ歯の入居者様には、每晚入れ歯洗浄剤を 使用し除菌をしています。毎年歯科検診を実施 し、ブラッシングの指導を受けています。		口の中を清潔にすることで、食事の他に生活への 活力を引き出せるよう、これからも洗面所へ足を 運べるような声掛けや誘導、介助に努めていき たいと思えます。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう状況を把握し、一 人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を している	入居者様一人ひとりの食事摂取量や水分量は、そ の都度チェックをして、申し送りや記録をし、個々の 状況を把握しています。前日までの業務日誌のメ ニューを見ながら、食事やおやつでの個々の栄養バ ランスを考え、提供するようにしています。		入居者様一人ひとり嗜好品や食べられる量は異な りますが、体調を見ながら偏らず、バランスよく栄 養をとれるように、これからも記録や申し送りを しながら、気をつけていきたくと思えます。

グループホーム 福寿草

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員は、感染症対応マニュアルを熟知し、日頃から入居者様、職員、面会者の手洗いとうがいを徹底し行っています。協力医院と連絡を取り、入居者様や職員全員のインフルエンザ予防接種の実施をしています。ノロウイルス対策では、保健所の指導があり、消毒の徹底をし、職員が感染源にならないよう、体調管理に注意しています。		現在では新型インフルエンザが県内にも発生しているので、食中毒や日々のノロウイルス対策と並行しながら、感染症予防に努めていきたいと思っています。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、包丁、まな板等は、毎日消毒し、肉や魚を切った後などもその都度消毒をしています。洗濯機は月に1回消毒して清潔にしています。食品は消費・賞味期限や産地(冷凍食品：中国産)を確認しながら、新鮮な食材を購入し、適切な場所で保管をしています。		食中毒になりやすい季節に入ったので、食品の買いためをしないように気をつけながら、より一層注意していきたいと思っています。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が広く、気軽に車を止めることができます。外にはベンチがあり、いつでも気軽に座ってお話することができようにもなっています。玄関や建物周りには、表札を掲げ、草花を植えており、入居者様や家族、地域の方にも入りやすい環境を作っています。		誰もが安心して出入りできるホームであるように、環境作りをこれからも継続して行っていきたいと思っています。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居間にソファがあり、畳式の長椅子を置いて、座布団や枕などもあり、好きなところでくつろげるようにしています。マッサージ器をホールに設置しているので、エントに関係なく入居者様が利用できるようになっています。入居者様が作成したその時の季節の掲示物を、ホールの壁に掲示しています。気持ちよくトイレを使用できるよう、臭いには特に気をつけています。		窓の掃除が疎かになりやすいので、季節など定期的に行っていくように努めたいと思っています。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールにはソファが6脚と畳敷の憩いの場があるので、好きな時に好きな場所で過ごせるようにしています。一人で外を眺めている方や横になっている方、2~3人でソファに腰を掛け、おしゃべりを楽しまれる方もなど、自由に過ごされています。		これからも入居者様がそれぞれ過ごしやすい居場所や空間を作っていけるよう、話し合いながら工夫をしていきたいと思っています。

グループホーム 福寿草

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居する時や入居をして生活が始まってからも、 入居者様の慣れ親しんだ物や家具等を持ち込んで いただけるようにしています。自宅と同じよう に、畳を敷いて、その上に寝具を整え休まれている 方もいます。		入居者様からの要望を聞き、ご家族の協力を得な がら応えられるようにしていきたいと思います。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	トイレや風呂場、台所、ホールは常に換気しています。 居室は入居者様に聞きながら、窓を開け閉めして います。冷暖房は入居者様によって感じる温度が 異なるので、温・湿度計を見て声掛けをし、入居 者様に確認しながら調節を行っています。		湿度や温度、臭いの変化が入居者様の体調や生活 に影響を与えることを心掛けながら、これからも 敏感に反応し、注意していきたいと思います。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	トイレやホール、風呂場、玄関はバリアフリーにしてお り、手すりも必要な箇所に設置していますので、入居 者様の状況に合わせて使用することができます。 便座は車椅子でも自力で立ち排泄できるよう、壁 側に向きを変えて手すりをつけています。		ホームは家庭の作りになっていますが、これからも 入居者様の状況に合わせて上手に使うって対応して いきたいと思います。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	洗面所やトイレ、風呂場にはそれぞれ目印がありますし、 居室には表札を掲げています。認知症重度の方には、 混乱することがないように声掛けをし、誘導をしていま す。ホールの真ん中に、時計と日付を掲示しております。 壁のシミや汚れは、ほとんどない状態です。汚れた場 合では、すぐに拭き取り取り除去しています。		入居者様の理解力に合わせて、これからも会話や 環境などを工夫して、安心して入居者様が自立し た生活を送れるようにしていきたいと思います。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ホームの外には洗濯物干し場や畑、プランターのお花が あり、いつでも好きな時に手入れや作業をし たり、布団を干したり、ベンチに腰掛けて過 ごしています。又、天気の良い日は、外でお昼ご飯やおや つを食べたりとしています。山菜等の処理作業に は、外でおしゃべりをしながら行っています。		これからも入居者様が季節の移り変わりを見て感 じることができるよう、季節に合った植物や掲 示物などを用意し、入居者様と作成をしていき たいと思います。又、季節を肌で感じることを できるよう散歩等で、外に出て楽しみを持てるよ うにも工夫していきたいとも思っています。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成21年度のテーマを全職員から募集したところ、「ありがとう たった一言 大きな愛」が今年度のテーマとして決定しました。ホームの理念の敬愛の心を持ちながら、入居者様一人ひとりのその人らしい生活ができるように職員一同取り組んでいます。ご家族の方はもちろん、地域の方々にもホームに足を運んでいただき一緒に楽しい時間を作れるように、春の観桜会では桜の木が4本ありますので、満開の桜を見ながらホームの広い駐車場を利用し、入居者様やご家族様、職員とお酒などを飲み交わしながらお花見弁当に舌鼓を打ちました。小さい畑ではありますが、キュウリやインゲンなどの野菜の苗を植え、サルビアなどの花はプランターに植えました。準備を進めている毎年恒例の夏の納涼祭では、今年で5回目となります。昨年は地域の親子会や青年部の協力を得ながら、企画からお祭りの片付けまでを一緒に協力し行い、ご家族や地域の方の参加も多く、大成功でした。今年も昨年以上のお祭りを！と考えています。秋の敬老会では、入居者様の長寿をお祝いしながら、職員による演芸や劇もあり見所が満載です。紅葉狩りでは、色づく山々の景色を見ながら角館・田沢湖方面などにドライブにでかけていますが、今年は更に秋の味覚をも探しに出掛けれたら、と考えております。冬は雪が積もると自然と目も足も外に向くので、入居者様と一緒に除雪作業をしたり、雪遊び等をしたりと、季節ごとに四季折々の行事や毎日の日課を行っております。

また、今年は初めて運動会をホームのホールにて行いました。高齢者の方に運動会を行うということで始めは体調の方を懸念しましたが、実際ボーリングや玉入れ、パン食い競争などを行ってみると、心配していたことが吹っ飛んでしまうほどの入居者様の体の動きや、生き生きとした表情や笑顔、歓声にホールが包まれました。運動会は年1回の行事予定をしていましたが、時期を見ながら再度年間行事に取り入れていきたいと考えております。